

家畜改良増殖目標（案）のポイントに対する国民の皆様からのご意見

No	性別	年代	都道府県	職業	ご意見の内容
1			北海道	会社員	<p>○ 乳牛の家畜改良増殖には、年月がかかります。国の酪畜の方向性に会った改良計画ができる基盤作りが重要です。輸入飼料の高騰、環境保全の考え方から、国内での飼料自給率向上を目的とする飼料米、草地農業も推進されています。これらの飼料の利用効率、粗飼料利用効率の高い牛の改良が求められます。そのためにも、改良の方向性を乳量、乳質、体型重視から、健康性、繁殖性、粗飼料利用性を重視する必要があります。</p>
2	男性	50代	愛知県	養豚業	<p>○ 豚の品種改良につきまして、現行行われている系統造成について意見があります。現在の養豚は国内情勢だけでなく、国際情勢を考慮に入れなければなりません。品種改良のレベルも国際レベル、すなわちスーパーコンピューターではないですが、世界一を目指さなければなりません。しかし現在行われている改良は、とても世界一どころか民間レベルにも及びません。当然、当事者たちは異論があると思いますが、現在の系統豚の能力ではとても世界との競争に勝てません。ですから、この機会に国や県の系統造成事業を見直していただき、それこそ事業仕分け並の改良を行っていただきたいと思います。また、話がとんでもないですが、品種改良というより品種の能力アップという行為そのものは民間の方が力を発揮しやすいことで、国や県などが先頭に立ってやること自体考え方のものかとも思います。乱文乱筆にて失礼。 以上</p>
3	男性		愛知県	養豚関係団体職員	<p>○ 我が国における種豚改良の基礎となる原種豚は激減しており、貴重な遺伝資源の確保が困難な状況にある。</p> <p>○ この状況を放置しておけば、やがては国内から原種豚が消え、全てを外国からの輸入に頼らざるを得なくなるのは明白で、豚も飼料も輸入となれば日本の養豚産業の独自性は失われ、原種生産国の支配下に置かれることになる。</p> <p>○ 現在、育種、系統豚維持・増殖、純粹種豚の生産に携わる機関、団体、農家が存在するが、コマーシャルベースでの導入希望の増加に対し、種豚生産農家は規模も小さくその戸数も減少し続けているのが実情である。</p> <p>○ 種豚生産農家の改良意欲は衰えを見せてはいないが、種豚生産は効率が悪く、他の飼育分野にはない特殊な経費と、抗体検査等の販売時には欠かせない経費が販売代金へ転化されにくい歴史を歩んできた。加えて、オーエスキーア病等の悪性伝染病の進入による著しい移動制限からくる流通阻害で、一段と厳しい状況に置かれている。</p> <p>○ この状況を打破し、日本の食生活、環境に適応する豚肉生産の安定供給を継続するためには、生産の源となる原種豚の育種・改良を疎かにせず、日本型養豚に合った改良への道を確立し、その種豚生産・供給体制を早急に整備・確立する必要があり、これに携わる機関、団体、種豚生産農家を強力に支援する必要がある。</p>

					<ul style="list-style-type: none"> ○ この状況下における今後の養豚改良増殖目標であるが、国内の肉豚の大半は三元（LWD・WLD）であり、繁殖性、産肉性、強健性、肉質ともに日本に適した組み合わせといえる。 ○ このことからL・W・Dの雌系、雄系区分を明確化し、誰が、何処で飼育しても平均的な枝肉となるように、斉一性を重視した系統造成を主体とした改良方針を希望します。（改良目標数値は現在の目標値を基準として、斉一性を重視）
4	男性	50代	北海道	馬関係団体職員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家畜改良増殖目標（馬）について、旧目標では「ばんえい競走」という語句が入っていましたが、新目標では入っていないようです。そこで希望ですが、是非新目標でも触れていただきたい。例えば、「改良の現状」の部分で「現在は、ばんえい競走の成績による選抜及びブルトン種、ペルシュロン種等のかけ合わせによる雑種強勢を利用して・・・」のようにすることが考えられます。
5	男性	50代	東京都	馬関係団体職員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 家畜改良増殖目標の資料5馬の新たな改良増殖目標（案）の1. 改良目標（3）能力に関する改良目標（イ）競走用馬の部分で、国際的に活躍できる強い馬づくりを行うために、丈夫で、競走能力の高いものにする。という記述を、国際競争力をもつ、肉体的かつ精神的に強靭で、スピードと持久力に優れた競走能力の高いものとする。に変更したほうがよいと思います。